

敏感期って何？

皆さんは“敏感期”という言葉を知っていますか？

モンテッソーリ教育の中で、この“敏感期”という言葉はキーワードになっています。

敏感期とは…ある特定の事に対して、感受性がとても高まる時期。敏感期が来ると、ある特定のことを簡単に吸収出来ます。

『ある特定の事』の中には、感覚・運動・秩序・言語・数などがありますが、今回は、“秩序の敏感期”について触れてみます。

↓

◎順番やり方、ものの場所などに強いこだわりを見せる時期

◎「いつもと同じ」に安心感を持つ時期

◎生後6カ月～3歳前後に見られる

私には、現在2歳7か月の娘がいます。2歳前後に“秩序の敏感期かな”と感じる場面がありました。

例えば…

- ・保育園からの帰り道、用事があり、いつもとは違う道を通ったら「違う！こっち！」と言い、不機嫌になった
- ・食事の時に使っている食器や食具を洗っていたため、いつもとは違う物を用意したら、「これじゃない！」と言って食べず、いつもの食器に移し替えたら食べ始めた
- ・いつもは夜ご飯→お風呂→就寝の流れですが、お風呂→夜ご飯→就寝の流れにした日は夜泣きをしたなど…

大人からすれば、「別にいいじゃん…」「どっちでも同じじゃん…」「そんなわがまま言わないで」と思われることが多く、一般的に“イヤイヤ期”と呼ばれてしまう時期とも重なります。

しかしこれは、「自分が誕生した社会に、適応するため」必要な姿なのです。

子ども達は、この世の中についてまだ良く分かっていません。

そこを理解しようとしたり、吸収しようと日々一生懸命過ごしています。

私達大人でも、初めて行く職場で物の場所や人の顔を覚えるまで、不安な気持ちになることはありますよね？

子ども達は常にそんな状況にいる、と想像してみてください。

そんな中でよりどころになるのが“**秩序**”（いつもと同じで変わらない安心できるもの）だと言われています。

いつもと同じ場所に物を置く、いつも同じ順序にする、同じやり方でおこなう、などの他に、秩序の敏感期（イヤイヤ期）の対応として、いくつかポイントがあるのでご紹介します。

- ① **子どもの気持ちを受け止める**→「そうだよね、〇〇だったよね」と代弁してあげることが大切です。
- ② **子どもに選択肢を与える**→「フォークかスプーン、どっちを使う？」と質問をし、子どもに選んでもらいます。どちらを選んでも“すること”になるのがポイントです。
- ③ **大人が余裕をもって行動する**→時間や大人の気持ちに余裕がないと、イライラしてしまって悪循環になってしまいます。
- ④ **あらかじめ予定を伝える**→「トイレに行ってオムツを替えたら、外に行こうね」など、事前に予定を伝えておくことで、子どもの中で気持ちの整理がつきやすくなります。

秩序の敏感期（イヤイヤ期）は必ず来るものですが、必ず終わりもきます。

私自身まだまだ未熟ですが、今回のようなことに限らず、保育士として、母として、何かお役に立てることがあれば…と思います。

些細なことでも、何か気になることがありましたら、いつでもお声掛けください。

（早紀）